

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

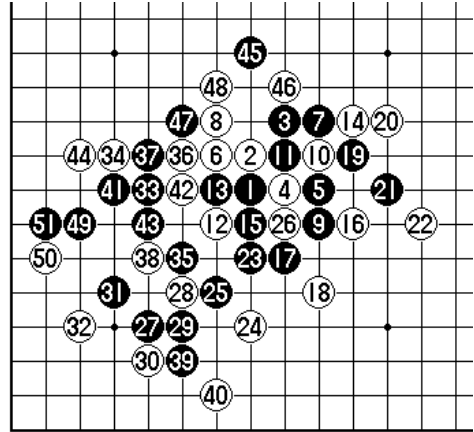
● 第98回 ●

■ 夏は世界戦!

奇数年の夏は何と言っても世界戦!である。毎回熱い戦いが行われる、恒例行事でもある。今年のエストニアのタリンで開催された。ATの結果は、中国代表の曹冬が2度目の優勝を飾った。2位にはロシアのシユコフ、3位に神谷君が入った。日本人選手は5人がATに出場し、4人が7位以内に入った。(ただし、次期AT国シードは3名)

今期は藤田さんがWTに参加し、QTからATの最後まで会場の様子をネットで伝えてくれたので、状況が非常にわかりやすかった。それでは早速、QTから1局見てみよう。

黒 中山 白 エピファノフ (ロシア) 黒51まで

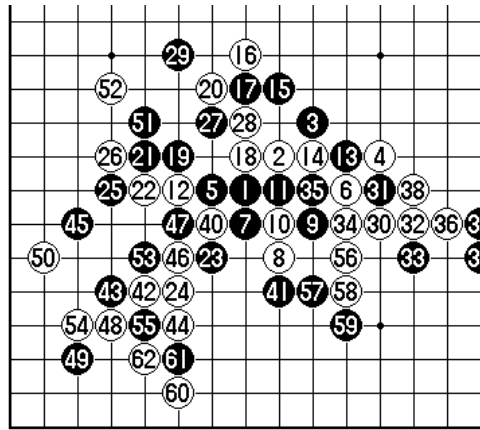


中山君は日本予選(珠王戦)で敗退し、QTからの出場となつた。本人は是非でもQTを通過したいと思つていただろう。また、当然ATに出場する力もある。ロシアのエピファノフも実力者で、ATへの突破を果たした。

溪月から白6までは他の珠型からも発生する頻発の形。白6はなるほどという一手だが、黒7で黒が勝ちという噂もある。それが本局は中山君の研究通りに

進んだようだ。黒27から29はいかにも研究という一手で、見事黒勝ちとなった。続いて、小山君がAT出場を決めた一局。

黒 トプキン 白 小山 白62まで

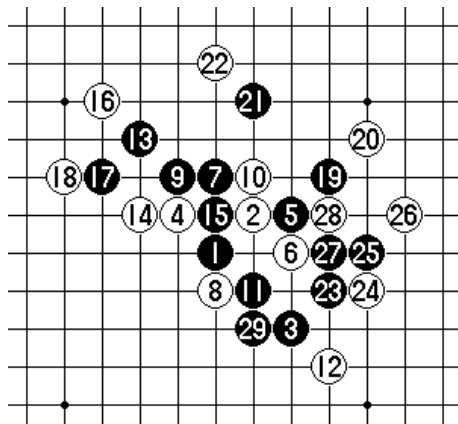


初形は長星だったが、白4、黒5でもはや見たことがない形に。こういう所が四珠交替打ちならではだろ。以下混戦が続いたが、黒の攻めを受け止め、白が勝ちきつた。これで小山君はうれしいAT進出。日本

人選手が5名もATに出るのは初めてで、これも日本の若手の層が厚くなった証拠だろう。

続いてATの局を何局か紹介しよう。

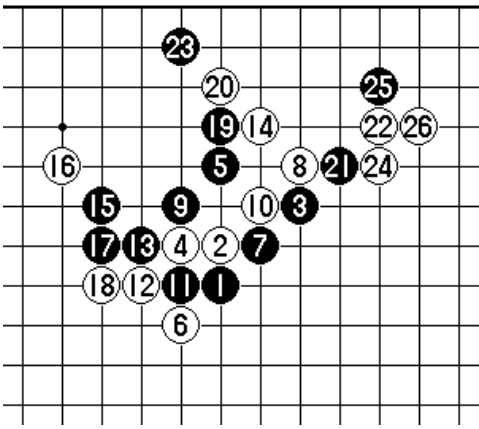
黒 曹冬 白 シユコフ 黒29まで



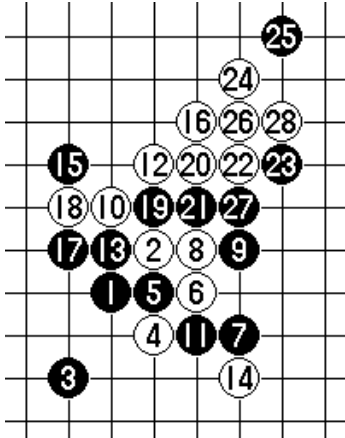
本局は時差の関係で途中でまだしかりアルタイムで見られなかったのだが、翌朝真つ先に結果を見て驚いた。黒が引き詰まっていると思つていたのだが、黒が簡単に勝っている!

白20からの防ぎが少々

甘かったようだ。黒21が決勝点だった。結果的に1位と2位の対戦だったので重要な一局だったのだが、2回戦ということもあり、さほど注目されなかったようだ。特に曹冬は初戦で負けているだけに、この局に負けたのは時間切れをした初戦だけで、あとは2満局、やはり強さが際立っていた。あとは日本人選手の譜を紹介していこう。まずは3位になった神谷君から。

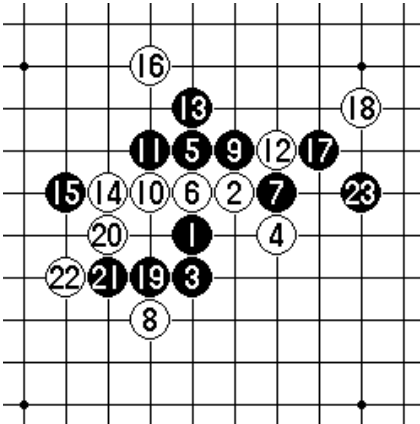


黒 ガルドストローム
白 神谷 白28まで
この局も黒5まで見たことがない形になっている。こうなると研究している方が有利だが、黒のガルドストロームは知らないだろうとは言えガドストは89年の第1回世界戦に出場している強豪だ。今回も見事QTの枰をくぐり抜けた。黒19が良くなかったようで、単手数で仕留めた。次は岡部戦を。



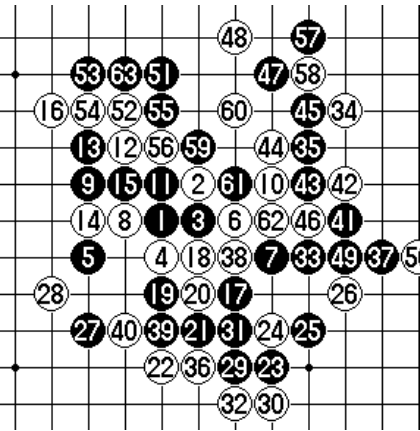
岡部君は前半好調だったが、後半失速した。しかし、何とか5位に喰い込んだ。

だが、快勝譜が神谷戦というのも皮肉だった。白10、12と思い切った作戦が功を奏し、短手数の快勝となった。最後は井上君。彼は今回珠王戦の枰からATに直接出場することができたのだが、若いメンバーにとつては必ずしもそれがいいとは限らない。実力は十分あるものの、手が伸びずに負けが込んでいた。



唯一の勝利となったフェドトフ戦から。

黒番で攻める展開になれば得意の分野に引きこめる。黒19で必勝形になり、黒23まで仕留めた。最後は何回も勝ちを確認したそうだが、世界戦では沈んだが、この悔しさをA級リーグにぶつけてくると思うので、注意が必要だ。この5名が参加するA級もハイレベルな戦いが期待される。最後は勝てば優勝だった曹冬・神谷戦を。



黒の猛攻を止め切っていたが、最後に敗着。残念！